

第16回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

令和2年1月20日(月)14:00～15:00

項目	意見	内容	対応
＜神通川水系神通川右岸圏域河川整備計画について＞			
治水	河川整備の優先順位について	何を基準として冷川の河川整備を優先的に実施することを判断したのか。	冷川は、富山市街地を流れ沿川に人家も多く、平成22年には浸水被害があったことから、優先して改修すべき河川であると判断した。
	浸水の未然防止について	過去30年間から40年間で住宅の面積が15%から30%近く増え、コンクリート詰め地面となっていることから、ゲリラ豪雨が発生すると集中的に用水路や下水道に集まるが、このような地域での浸水の未然防止対策を実施しないのか。	冷川の流域においても堀川本郷などで開発が進んでいるため、河川のみならず、開発行為に係る都市計画関係者とも連携を図りながら、ハード・ソフトの両面で様々な対策を行う必要があると考えている。
	冷川の確率計算に使用する降雨データについて	冷川の確率計算に平成14年までの降雨データを使用しているのは、平成17年に策定した計画の見直しだからか。また、平成22年に冷川で浸水被害が発生した際の降雨などで再検討はしないのか。	当初整備計画を策定した平成17年には、いたち川流域の中央部付近にある富山市石金にあった富山工事事務所における平成14年までの降雨データを使用していた。しかし、同地点は事務所が移転し、それ以降は雨量データの観測が行われていない。また、流域内にこれに代わる長期間の雨量データを保有している観測所はなく、再検討が難しいと判断し、今回は実施しなかった。なお、いたち川流域内ではないものの、神通川右岸圏域内に存在する、秋ヶ島のアメダス雨量データを17年分追加し、計57年分のデータとして参考までに確率計算を行った。その結果、SLSC※＜0.4の範囲で、 1/50確率水文学量 192.6mm/24h～197.9mm/24h (現計画207.9mm/24h) 1/20確率水文学量 170.9mm/24h～173.3mm/24h (現計画181.3mm/24h) となり、現計画を超過するものはなかった。 ※データの適合度の尺度
環境	河川の水質について	整備計画の水質に関する記載について、至近10ヶ年の値は全てA類型を満足しており、行政と地域住民が日々努力した結果だと思われるため、本文における「環境基準を満足している」を「環境基準のA類型を満足している」に変更した方がよい。	いただいた意見を本文に反映したい。
	流速の変化に伴う魚類への影響について	環境調査で希少種が確認されていたが、改修により川幅が広がることで川の流れが緩やかになるのか。流速が変化する場合、魚類の生育に影響があるため、専門家に確認した方がよい。	川幅は現在の2倍程度となり、流速は若干下がるもののそれほど大きな変化はないと考えている。しかし、今後の整備にあたっては魚類の専門家に意見を聞きながら進めていきたい。
	希少種について	希少種が確認されたことについて整備計画には反映されるのか	庁内関係課から、希少種に関する記載について意見が出されているため、あわせて本文を見直したい。

項目	意見	内容	対応
その他	河川の親水について	整備計画で防災という観点だけではなく、河川の環境や地域性を知るといった意味の親水という言葉を入れることはできないのか。	整備計画の中に河川と地域住民との連携を図り、河川に親しみを持ってもらうことについて記載している箇所があるため、この内容を充実することで対応したい。
	親水施設の整備について	今回追加する冷川の整備対象区間（470m）において、親水施設を整備するのか。	今回追加する冷川の整備対象区間においては、親水施設の整備は難しいと思われる。しかし、これまで、いたち川では「どんどこ」の整備により親水空間を確保してきたところであり、今後必要に応じて検討してまいりたい。